

No.11 多発している階段、棧橋 - 墜落・転落の死亡災害事例（2022年）

2022年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故の型 コード	労働者規模
12	12～14	被災者は一人で用具等を洗浄する洗い場にて、上水道の改修作業を行っていた。午後の作業開始後間もなく、災害発生場所の隣の部屋で菓子製造を行っていた労働者が「ドスン」という音を聞いたため確認に向かったところ被災者が倒れていた。被災者の傍には高さ2.28mの高台及び閉じた状態で高台に寄りかかるように設置されていた脚立があった。当初命に別状はないとされていたが、急変し死亡したものの。	010104	413	1	50～99
12	8～10	被災者が製品である木製のフラッシュドア（幅約90cm×高さ約180cm、重量約7kg）を持って、2階へ移動していたところ、誤って階段から転倒したと推定されるもの。現認者なし。意識不明で入院していたが、後日死亡したものの。	010503	413	1	1～9
12	16～18	技術責任者としてテレビ番組収録の立合いのため、ホール内の西階段を移動していたところ、中段辺りから墜落して1階コンクリート床で後頭部を強打した結果、くも膜下出血を負い、休業見込みは2か月とされていたものの、快方に向かわず、同月中に死亡したものの。	110101	413	1	500～999
8	8～10	清掃作業を行う労働者が、就業先のマンションにおいて、清掃用具を携行してエレベーターに10Fまで乗車後、高層階から墜落し地上で発見されたものの。	150101	413	1	10～29
		民営葬祭場（事業場Aから被災者ほか1名配置）で被災者は巡回清掃と祭壇飾り付け補助を行う。巡回で1・2階間の階段を下りる				

7	14 ～ 16	際、中間の踊り場付近から、1階床に頭から転落した。直後に1階で作業中の民営葬祭場職員に発見されて救急搬送後、当日中に死亡（階段転落での頭部打撲傷からの頭蓋内損傷による低酸素脳症）。階段は蹴上げ18cmで踊り場高さは8段分・144cm（手すりあり）。	150101	413	1	30～ 49
7	10 ～ 12	ガス管理設後の舗装復旧工事に被災者含め3人で警備。交替休憩で被災者は午前中に警備位置を離れた。30分後も戻らず、指定休憩場所のコンビニへの経路（警備位置から約240m）捜索でも未発見。捜索と別に、通行人が付近公道の階段最下段で倒れている被災者を発見・通報し、意識不明で搬送後に死亡。死因は転落が原因の脊椎骨折による脊髄損傷。階段は高さ約4mで手すりあり。	170201	413	1	100 ～ 299
4	10 ～ 12	被災労働者の就業場所の施設7階のワクチン集団接種会場の外で大きな音があり、会場スタッフが確認したところ、6階に下りる階段の踊り場で被災労働者が意識のない状態で倒れているところを発見されたもので、搬送先の病院でその後死亡したもの。	170101	413	1	1,000 ～ 9,999
3	16 ～ 18	個人宅のリフォーム工事現場において、塗装が不十分な箇所の再塗装のため、建屋の外階段（手すり未設置）を上っているときに、バランスを崩した被災者が高さ2.6メートルの階段上から墜落し、死亡した。	030201	413	1	1～9
3	12 ～ 14	地上5階地下1階マンションの清掃兼管理を行う被災者が、地下1階の床、地上から下りる階段の下で、頭から血を流し倒れている姿を巡回管理者に発見された。意識不明で搬送後、同日中に死亡。階段は地上入口から12段、踏面27、蹴上20、幅93（単位cm）、コンクリ製で手すりはなかった。水道メーターの検針のため階段を下りる途中で転落し頭を打ったと推測。	150101	413	1	500 ～ 999
	10	実験棟（13階建）の屋上の高圧受電設備の警報鳴動があったため、設備管理責任者である被災者が、状況確認のためエレベーター				

2	～	ターで13階まで上がり、13階からは階段で屋上に向かった。	170209	413	1	1～9
	12	その後、電灯交換工事業者の者が、13階から屋上の間の階段の踊場で倒れている被災者を発見した。				
2	～	場内の巡回警備を行っていた被災者が、建物内部の階段で頭部から血を流して倒れているところを発見されたもの。	170201	413	1	500～999
	14					
2	～	被災者の作業場所（建物2階）から降る階段の下で、被災者が倒れているのが発見された。発見時は意識があり、落ちて背中を打ち足が動かない旨を述べていたが、そのうち意識を失ったため病院に搬送されるも死亡したもの。	150103	413	1	1～9
	6					
	8					
1	～	置き薬の状況等の確認のためマンション3階にある個人宅を訪問し、訪問途中で一度営業車に戻ろうとしていた被災者が、マンションの階段の下の踊り場で倒れている状況で発見された。その後、数日後に死亡したもの。	080209	413	1	1～9
	18					
	20					
1	～	被災者は当該事業場で調理業務に従事していた。同僚労働者が帰宅途中、階段下で仰向けに倒れていた被災者を見つけた。帰宅のため調理場を出て、事業場の敷地内にある12段のコンクリート階段を昇っていたところ誤って転落し頭部を受傷したと考えられる。被災後、救急車で搬送されたものの、翌日、急性硬膜下血腫により死亡した。	140101	413	1	30～49
	20					
	22					
1	～	店舗の1階と2階をつなぐ階段からドスンという音が鳴り、その音を聞きつけた事業主の父母が駆け付けたところ、被災者が階段で倒れているところを発見した。被災者は緊急搬送されたが、首の頸椎を損傷しており、同日中に死亡した。	140201	413	1	10～29
	8					
	10					
1	～	客室の清掃作業を行っていた被災者が、旅館内の階段を降りて移動していたところ、階段踊り場までの高さ84cmの位置から転落し、急性硬膜下血腫により意識不明となった。その数日後に死亡した。	140101	413	1	50～99
	14					
	16					

---

出典：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.html>(職場のあんぜんサイト)

Return to [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311\\_03.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_03.html)